

【全国発信記事】北陸支部

— サンマ棒受け網漁船出港 —

魚津港「第8珠の浦丸」
気仙沼港「第1恵比須丸」「第35豊進丸」

秋の味覚サンマを求めて出港

8月20日からの大型サンマ棒受け網漁の解禁に向け、8月16日に富山県魚津港から「第8珠の浦丸」が出港した。

また、17日には宮城県気仙沼港から「第1恵比須丸」と「第35豊進丸」が、乗組員の家族や漁業関係者らに見守られ、前線基地となる北海道(釧路港・花咲港)に向け出港した。

近年は日本近海の海水温度の上昇などにより、漁場が沖に形成されるなど不漁が続いており、昨年の漁獲量は過去最低を更新した。サンマを扱う各市場や関係業者ともに厳しい状況で終えたが、今出漁にあたり「第8珠の浦丸」船主の中島泰成さん(富山県さんま漁業協会会長)は「新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底したうえで、乗組員には航海の安全と安全操業に努めてほしい。そして、少しでも多くのサンマを漁獲し、鮮度のいいサンマを県民や地元提供できるように頑張りたい」と語った。

新型コロナウイルス感染症の影響による観光需要の落ち込みや、飲食店の時短営業などで魚介類の需要も不透明な状況にあるが、見送りに訪れた家族や漁業関係者は、大漁に期待を込め「体に気をつけて頑張ってきて」と手を振り言葉をかけた。

各船とも太平洋東沖を操業した後、北方四島周辺から福島県沖にかけての漁場で12月ごろまで操業する予定。

「海員だより」